



「この講義は、高校生も聴講します」。4月中旬、中央大経済学部1年生ほぼ全員が履修する科目「経済入門」の教室で、担当教員の声が響いた。

この日は、「経済入門」の第1回講義で、人類の発達と経済学との関わりなどをテーマにした。制服姿の高校生2人は新入生約30人と一緒に、やや緊張した表情でメモを取る。大学生と区別されることなく、教員からの指名で問いに答えるよう求められる場面もあった。

国立市の都立高3年、田瀬弘武さん(17)は「大学の雰囲気を知ることができ、有意義だった」と振り返った。

経済学部では昨年度から「経済学の基礎知識を学ぶ」「経済入門」を受講する高校生を募集し始めた。講義は前期と後期に分かれており、それぞれ15回。週1回、夕方八王

高校生にも「経済入門」

中央大経済学部 (八王子市)



高校生も受講する「経済入門」の講義(中央大経済学部で)

子市の多摩キャンパスで開講され、高校生が制服姿のまま駆け付けるようになった。大学生と同じように、リポートの提出などの課題をこなし、試験も受けて習熟度合いを問われる。

「高校生には、経済学部で何を学べるのかイメージしづらいのでは」。経済学部の武田勝准教授はこう推測し、「経済学を学べば、社会のいろいろな仕組みがわかる。高校生のうちに『おもしろい学問だ』と知ってもらい、大学を受験する時の学部選択に役立ててほしい」と呼びかける。

この取り組みでは、「経済入門」を受講した高校生が経済学部に入学した場合、高校在学中に修得した単位を、大学卒業に必要な単位として認

定する。文部科学省によると、同様の試みは全国的にみてもあまり聞かないという。

昨年度は8校から、高校生の男女15人が受講。半数近くの7人が今年度、経済学部に入学した。同学部1年の雷田夏帆さん(18)もその1人。「高校生にも理解できる内容で、経済学のイメージが膨らんだ」とメリットを語り、「大学に入って初めて経済学を勉強する学生よりも一歩リードして入学できる。強みに感じる」と強調する。

経済学部では今年度後期から、インターネットの無料テレビ電話「スカイプ」を使って遠隔授業を導入する。今後、より多くの高校生が「経済入門」を受講できるようにしていきたい考えた。

(宮地語)

◇中央大経済学部
1905年開設。経済、経済情報システム、国際経済、公共・環境経済の4学科が、いずれも多摩キャンパスに設置されている。学生数は約4370人。